



第2号

編集発行  
園田学園女子大学  
シニア専修コース  
「けやき便り」編集クラブ  
電話 06-6429-9908

**祝！！ 生涯学習30周年**  
**『今日是一日生涯学習三昧』**



生涯学習30周年に際し挨拶をされる今井学長

生涯学習30周年記念フェスタ『今日是一日生涯学習三昧』開催される  
……平成22年12月11日……

**生涯学習30年、そして明日へ**

総合生涯学習センター  
所長 松成 雄三

本学は全国の大学に先駆け、昭和54年に生涯学習への取り組みを始めました。以来、先輩のかたがたの並々ならぬご尽力と30年余に渡る受講生のみなさまの存在が地域の文化・教育・学びの場として、本学の生涯学習の支えとなり今日を迎えることになったと思います。厚く感謝を申し上げたいと思います。

足元10年間での主だった動きとしましては、平成13年度に生涯学習センターを設置。名実共に生涯学習に取り組む本学の姿勢を改めて打ち出したかたちができ、公開講座の数・内容等さらに充実する基盤が出来あがりました。

平成14年度には公開講座に加え、よりじっくりと学ぶための「3年制/シニア専修コース/文

学歴史学科」を設置。翌年の平成14年度には「国際交流学科（後に国際文化学科と変更）、平成21年度には「情報学科」をスタートさせてまいりました。

本学は、生涯学習に取り組む基本的な姿勢として「さまざまな学びの場」を提供することを考えております。

30年前の発足当初、「土曜公開講座」の名前のとおり土曜日のみ開講であった公開講座も現在では曜日に関係なく連日講座を開講し、シニア専修コース3学科とともに、学びたい「さまざまな」受講生のニーズに応える努力を行っています。

第1会場 メイン会場 3号館AVホール 10:10~15:25  
敬称略

10:10 開場(司会)  
課長 榎本 匡晃



13:00 学長挨拶  
学長 今井 章子



14:10 講演「豪州留学奮闘記」  
研究生 松隈 美江



10:40 開会の辞  
所長 松成 雄三



13:15 講演「フィジー訪問記」  
国際文化学科2年 山田 孝雄



14:25 ディジュリドウ@そのだ  
オーストラリアの先住民の民族音楽と  
基調講演 教授 松山 利夫



10:45 記念講演「歴史を愉しむ」  
教授 大江 篤



13:40 講演「楽しい旅の秘訣教えます」  
情報学科2年 上野 栄三



11:30 講演「南極紀行」  
国際文化2年 橋田 利生



13:55 リフォームファッションショー  
非常勤講師 梶間 充子



今年の幸運は誰に！！  
抽選タイム



第2会場 ミニ体験講座

2号館各教室 前半 10:40~11:25  
後半 11:25~12:20

英会話 (上級)  
シメリンク先生



英会話 (中級)  
レネリン花峯先生



英会話 (初級)  
オニール先生



フランス語 (初級)  
橋本先生



韓国語 (初級)  
季 先生



中国語 (初級)  
姜 先生



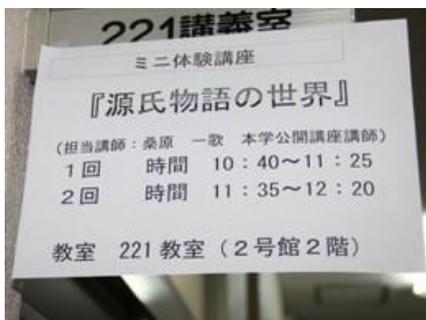
第3会場

源氏物語の世界  
桑原先生

クリスマスケーキ (ブッシュ  
ド・ノエル) をつくりよう  
木原先生  
製菓・調理実習室  
10:40~12:10

第4会場

うどん打ち体験講座  
赤田先生他  
開花亭 (学生食堂)  
前半 11:00~12:00  
後半 12:00~13:00







生涯学習30周年記念  
受講生  
作品発表会場

30周年記念懇親会&そのだ国際交流の夕べ 開花亭 15:30~17:00



各会場でのスナップー 1



各会場でのスナップー2





10月2日(土) 文化人類学入門をお教えて頂いている河合先生の引率で、犬山市にある野外民族博物館に、大学のバスを使って、学外授業に行ってきました。(天気は晴れ)

参加者は、国際文化学科21名、文学歴史学科5名、情報学科2名、研究生1名、学生3名です。



7時30分阪急電車武庫之荘駅前  
のコンビニに集合



河合先生のご挨拶



リトルワールドに到着、母子像  
がお出迎え



巡回バスを使って効率的に見学



河合先生からミクロネシア・ヤップ島の民家の解説を聞く



ドイツ・レストランで、何はともあれビールを注文！！



メニューは、ワニ串、ダチョウ串、ラクダ串、らくだステーキ。皆さん如何ですか！！



元気のでるワニ串を食べて、ケニヤビールで乾杯！！アフリカ・スタイルです。



インドネシア  
トバ・バタックの家



ドイツ  
バイエルン州の教会



イタリア  
アルベロベッロの家



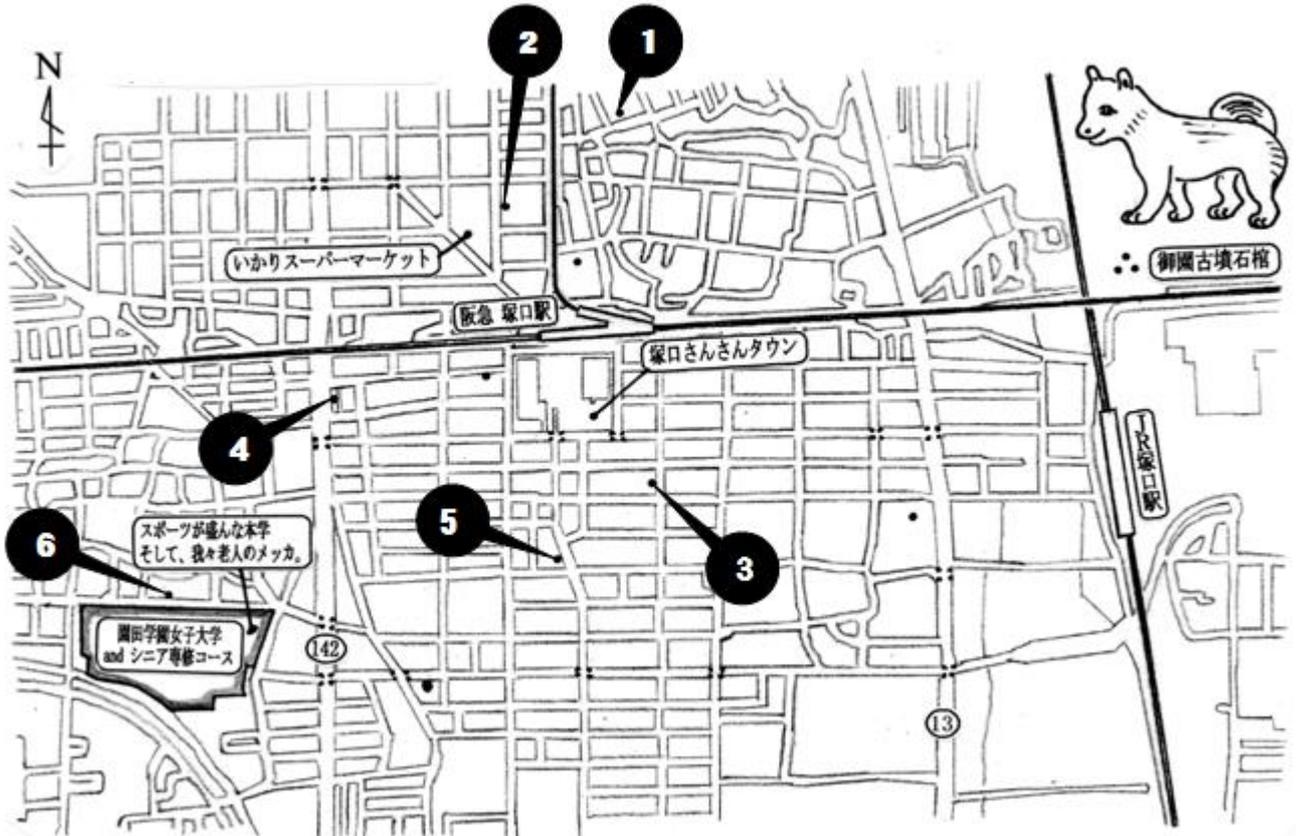
お世話を頂いた  
国際文化学科  
河合さん（3年）と  
齋藤さん（1年）



参加費用  
65歳以上 3600円  
65歳未満 4000円  
(巡回バス代 500円含む)  
昼食代は別途必要です。



# 塚口周辺スポット



- ① 「岸本吉二商店」 12 ページの「菰樽メーカー訪問記」に詳しく掲載しています。
- ② 「CAFE BAR WIRED」 若い人のたまり場のような店ですが、軽快な B. G. M が流れ、南欧風の色調で結構気分がいい。奥はカウンターになっており、そこで軽く一杯！ (06-6421-7024)
- ③ 「FeinbRot」 (ファインブロット) 自家製の 30 種類以上の菓子パンを皆さんに楽しんでいただいております。
- ④ 焼肉「光」 主人の柔和な顔が印象的。もちろん、おいしいよ！ (06-6427-2466)
- ⑤ 「Pizzeria Trattoria ERBA」 本格石窯で作る料理はサクサク。 (06-6429-7559)
- ⑥ 居酒屋「かわぐち」 園田女子大の向かいにこのようなお店があったとは (06-6422-3096)

## 菰樽メーカー訪問記

我々編集クラブのメンバー7人で菰樽を作っている会社の一つ、岸本吉二商店におじゃまし、工場も見学させていただきました。この菰樽作りの様子や印象を書いてみました。



尼崎は日本有数の酒どころが周囲にあり、農家の冬の仕事として菰縄づくりが地場産業として発展してきたそうです。菰は運搬時の樽を

保護する目的からスタートしましたが、やがて、他の銘柄と区別し、且つその酒造会社のブランドイメージを強く印象付けるため、商標を刷込むようになりました。それを印菰(しるしこも)というらしいです。杉樽を包む菰はわらを織って作りますが、樽のサイズに合わせて菰の大きさが決まり最も小さい物は0.3リットルのお酒が入るものから4斗樽(72リットル)まであります。その菰に商標をプレスで圧着します。その銘柄を見せてもらいましたが、遠く新潟、山形の酒造会社もあり、さすが全国シェア50%以上というのは理解できました。

次に樽を置いて菰を巻き、縄をかけていきます。その工程はすべて手作業で、熟練した職人さん(荷師と呼ぶ)の縄かけの技は巧みで、見

ていて手際良い。加えて、見学者が絶えずあるのか、当方の質問に快く応対して頂き、社風の良さを感じました。縄の結び目は男結びにするのでほどけないそうです。



樽の上蓋を勢いよく割って乾杯する

「鏡開き」は、結婚式、会社の祝い事等の慶事に欠かせない日本独特の風習です。今回、4斗樽だけでなく0.3リットルの超かわいい豆樽も見せてもらい思わず欲しくなりました。

この尼崎の伝統産業の現場を見学し、オリジナル菰樽づくりに挑戦するプランを下記内容で開催されています。一度体験してみませんか？



「けやき便り」編集クラブ 柳田 報告

### 菰樽づくり体験プラン

- 開催日時 3月～9月の第1・3金曜日 14時30分 - 16時
- 集合場所 岸本吉二商店 (阪急「塚口」駅北へ5分ぐらい)
- 参加定員 (4～10名ぐらい)
- 参加費 3500円 (工場見学、お土産付)
- 受付方法 1週間前までに電話またはホームページから予約してください
- ホームページ [www.komodaru.co.jp](http://www.komodaru.co.jp)
- E-mail [webmaster@komodaru.co.jp](mailto:webmaster@komodaru.co.jp)
- 住所 〒661-0001 兵庫県尼崎市塚口本町2-8-25
- 電話 06(6421)4454 (代表)
- ファックス 06(6421)4465



# 魅惑の島 フィジーを旅した 満天の星、きらめく南十字星

## 第2回



### 国際文化学科2年 西阪 順三

4日目の26日はオバラウ島へ移動するので早く起床、午前6時に予約していたタクシーがなかなか来ないので、電話を入れると運転手はまだ寝ているというのんびりしたムードです。スバから車で約1時間のナウソリ空港から小型飛行機(8人乗り)に乗って約15分間の飛行でしたが、機内は雨漏りがしたり、ガタガタ揺れるので落ちないかと心配するほどです。少しガスがかかっていたようですが、紺碧の海に珊瑚礁に囲まれた小さな島々を眺めながら目指すオバラウ島に無事着きました。



#### 私たちの訪問に大喜びの児童たち

迎いの車で約40分間、ガタガタ道を揺られながら山奥にあるロボニ部落を訪問しました。村の案内人のお宅で、イギリス人の奥さん手作りのパンケーキなどフィジー料理を美味しくいただきました。早速、今回の旅行目的の一つである村のロモニ・フィジアンスクールを尋ねました。事前に吉田さんが連絡を入れて頂いていたので、教頭先生(この学校は校長先生はいな

い)の出迎えを受け、まず各教室で全校生125名に紹介して頂きました。外国人が訪れる事が初めてとのことで、みんな「ブラ、ブラ」と大歓迎です。

午前中、荒井さんのウクレレの伴奏で私たちと5,6年生60人との歌の交歓会です。最初、私たちが日本の歌「四季の歌」「上を向いて歩こう」「しあわせなら手を叩こう」を披露しましたが、子ども達もすぐに覚えて歌い出します。とくに「しあわせなら手を叩こう」では全員で手を叩いたり、足を踏み鳴らしたりして本当に楽しそうでした。子どもたちも校歌や国歌を元気よく歌い、おしまいに私たちも練習していたフィジーの別れの歌「イサレイ」を合唱しました。

午後は教頭先生のお宅で昼食をご馳走になり、再び学校に戻って5,6年生と一緒に日本の伝統文化である折り紙の手ほどきをしたり、おはじきを使っの遊びを教えたりして楽しい1日を過ごしました。この集落にはこれといった産物もなく、男達は町へ出稼ぎに出るなど貧しい家庭が多いのです。だけど子ども達は明るく素朴で、みんな裸足で元気に駆け回る姿に心を打たれるものがありました。

再び車で揺られる事約2時間、やっと古都レプカに到着です。本島の東側にある小さなオバラウ島に何故、首都があったのかと不思議に思われます。1874年から捕鯨基地として榮え多くの欧米人が滞在したことからフィジー共和国

の首都となったのです。当時、欧米人たちが建てたコロニアル様式の木造建築が140年たった今でも原色のまま多く残っています。

8年後の1882年、現在のスパに首都が移ってからは来訪者はめっきり減ったそうです。第2次大戦後、日本の遠洋漁業船団が北洋漁場から追い出されて、このレプカ港をマグロの基地とし、埠頭には缶詰工場まで建てたのですが、それも長続きせず台湾、韓国と所有権が移っています。

吉田さんは缶詰工場で働いていたとき、ロイヤルホテルを経営していたイギリス人の娘さんと結婚、歴史あるホテルの保存と経営を続けておられます。私たちはこのロイヤルホテルで3日間お世話になりましたが、140年も経った古風の中にも洋風の威厳を感じました。所々には痛んだところもあり、吉田さんも建物の修理と維持に苦労されているそうです。



### シナラ住民たちによる歓迎のカバの儀式

5日目の27日は第2の目的でもあります原住民のシナラ集落を訪ねました。幌つきの小型トラックのお迎えで海岸沿いに7つの岬を越えて約40分後に村に到着です。長老一人が村の入口まで出迎えて村人10数人が集まっているテントに案内されました。さっそく歓迎のカバの儀式です。カバは胡椒科の木の根っこを乾燥して粉状にしたものを袋に入れて、水をかけながら搾り出した汁のことです。フィジーの島々では遠来の客をもてなす一つの行事で、飲むとニッキ汁に似た味がします。私たち3人は「村の人たちに悪い」と飲み干したのですが、2人は下痢を恐れて遠慮しました。村の若い女性からきれ

いな花で作った歓迎のレイが全員の首にかけて頂いて儀式は終わりました。

村人達は昼食に伝統料理、ロボの支度にかかり、海岸沿いの砂浜を深く穴を掘り、底に薪を並べてその上に石を置きます。薪に火をつけて焼けた石の上にタロイモ、キャッサバ、パンの木の実と、ヤシの葉に包んだ鶏肉、魚などを並べた上に土を被せて4.5時間蒸し焼きにします。

その間村の中を案内してもらいましたが、台風被害を考えて家々は高さ2m位で非常に天井が低く暗いのです。そんな中で老女がパンダナスという葉を乾燥したもので敷物を編んでいました。村のあちこちには椰子はもちろんパイア、マンゴ、バナナなどの果物が多く植えられ所有権は植えた人にあるそうです。この日は村の女性がアメリカ人と結婚する日で、ほとんどの村人はレプカの式場に出かけて不在でした。

お昼に蒸しがあがったロボ料理をいただきながら、村の青年が曳くギターの伴奏で歌の交歓会を楽しんだあと、プレジャーボートで沖合いの珊瑚礁を見に出かけたのです。荒井さんらが飛び込んだのですが、潮の流れが速く危険ということで、船上から箱型の中メガネを使って美しい珊瑚や熱帯魚を見ることが出来ました。

この村は30年前までは裏山の中腹で生活していたのですが、これといった産物もなく生活に困って海岸沿いに移ってきたそうです。いまでは裏山を有刺鉄線で囲いをして牛や羊、山羊を放牧したり、観光客を誘致したりして、自立の道を模索する村人たちの努力に頭が下がります。

6日目の28日朝、ホテルの吉田さんからチリの大地震で、津波がこの地方にも来る恐れがあるので、裏山のイギリス人宅に避難して欲しいという知らせです。急いで食事を済ませ20メートルほど登った所にある邸宅を訪ねましたが、すでに外国人の方10数人が避難されていました。最初8時半ごろに到達の情報が9時、10時と延びましたが、結局は15センチほど潮位が上がっただけで終わったそうです。

このレプカの街を世界遺産に登録しようと調査、研究している九州大学芸術工学部の博士課程、八百板秀穂さんにお会いしてレプカの歴史、建物などについてお聞きしました。レプカタウンは19世紀前半から西欧諸国が港町として建設をはじめ、教会や学校、住宅、店舗などすべてが、南太平洋最古の姿を留めているそうです。海岸沿いにはパステルカラーに彩られたコロニアル（植民地様式）の店舗や急峻な山の麓には



世界遺産登録を目指すレプカの街並み

ギリシャ様式を模したシティーホールやゴシック様式の教会など特徴ある町並みを形成、他の南太平洋地域と違って近代文明と先住民との交流が築いた希に見る文化遺産だということです。

1986年には国内の歴史都市登録を受け、景観保全の条例が施行されたのですが、国内の専門家不足や政府の一貫性のない取り組みも悪く、4半世紀にもなるのですが、未だに世界遺産の登録が果たされていません。2003年に九州大学の西山教授が、フィジー政府の支援要請を受けてこれまでに10回に及ぶ調査を行なっています。フィジー暫定政権から助成が得られないので、文化財保護・芸術研究助成財団に調査の助成を申請されています。説明を聞いて海岸沿いの商店街や博物館を見て回りましたが、これを維持保存するには大変な作業と費用が掛かると感じました。

## 〔所思小話 その2〕

# 観光地の人口空洞化 — 広島県尾道市 —

国際文化学科1年 小村良二

## 1

瀬戸内海国立公園内の広島県尾道市は観光地・行楽地として広く知られており、西の小京都とも呼ばれる。同市を訪れる観光客は2009年年間で約580万人にも達し（「広島県観光客統計表」、2009）、この客数は世界文化遺産の宮島・厳島神社を有する同県廿日市市の観光客数を上回って広島市及び福山市に次ぐ。また、尾道市は映画の街としても知られており、近年では市内の各地をロケして制作された大林宣彦監督作品の映画が多い。

尾道市内の主要な観光施設は、JR山陽本線尾道駅の北東方に位置する千光寺・千光寺公園周辺に集中する。千光寺とその周辺地区は古くか

らの桜の名所であり、同寺から眺望する尾道水道は絶景を極め、かつて多くの文人に愛された。同公園には文学の小道が整備され、おのみち文学の館（文学記念室）や志賀直哉の旧居などが残されている。

千光寺・千光寺公園は千光寺山（大宝山）の山頂部にあり、麓の尾道市中心市街地から山頂までロープウェイが通じている。千光寺山（大宝山）は標高144m（三角点の標高は136.6m）の低山であるが急峻な坂が多く、麓の中心市街地から徒歩で登坂するのはかなり厳しい、したがって千光寺へ参拝する観光客や千光寺公園へ向かう行楽客は通常は往路にロープウェイを利用し、復路は尾道水道などの景観を楽しみながら徒歩で下り、その道中で観光・文化施設を見

学する。千光寺山（大宝山）の山頂部へ向かうこの登坂道沿いや周辺の傾斜地には、多数の住宅などが立地し市街地化している（尾道市東土堂町、同市西土堂町ほか）。近年、これらの市街地（千光寺山登坂道を含む同山の南側傾斜地）や、近辺の山地の南側傾斜地に立地する市街地（いずれも尾道市の特別区域に指定）に異変が生じている。

## 2

上述した千光寺山（大宝山）の南側傾斜地や近辺の山地の南側傾斜地に立地する特別区域の市街地ではこの数年間に人口流出が続き、人口減少とともに空き家や老朽化した住宅が増加し廃屋化も進んでいる。千光寺や千光寺公園に気分良く訪れた観光客や行楽客がその道中に否応なく目にするのは、観光・文化施設の狭間に散在する空き家や廃屋である。多くの観光客や行楽客は、著名な観光地の風致地区に展開される場違いな光景を目にして、言いようのない空しさを感じるに違いない。上述したように年間約580万人も集客する尾道市の観光（産業）は地域振興の柱であり、風致・景観地区の魅力を最大限に活用して同市の都市づくりや活性化に結びようとするものであろう。それだけに同市の主要な風致・景観地区に生じた空き家や廃屋などの増加は、地方都市づくりや地域振興に対する重大な障害となる。このことは、大阪などの大都市の中心市街地に見られる所謂“シャッター通り”とその深刻さの点で次元の異なる現象である。

一方、尾道市内の鉄道・駅やバスなどの交通拠点、スーパーなどの商業施設、病院などの医

療施設、金融機関などほとんどすべての都市機能がJR尾道駅周辺を中心市街地に集中する。このため、特別区域の市街地の住民が日常生活手段を得るには、同中心市街地まで往来する必要がある。しかし、上述したように山地や傾斜地における急坂の登坂道や石段、狭い路地などは乗用車や自転車の使用もままならない。特に、高齢者にとっては厳しい生活環境である。したがって特別区域の市街地から人口流出が続く主因は、同市街地が著しく利便性の悪い生活環境下であり、通勤・通学・買物などの日常生活にとってあまりにも支障が大きい、ことに起因すると考えられる。

## 3

既述したように、観光都市尾道市の山地部に立地する市街地に生じた人口空洞化は、他の観光都市でも起こり得ることである。今後、同市において講じられるであろうこの問題への対策は、他の観光都市に同様の問題が生じた場合のモデルケースになると思われる。

### 追 記

2010（平成22）年9月末から、尾道市を舞台にしたNHK朝の連続テレビ小説「てっぺん」の放映が始まり、同市は全国的に注目されるようになりました。このため、本稿の論点である尾道市の特別区域の人口動態に新たな変化が生じるかも知れません。しかし、2010（平成22）年10月現在では本稿の主要な論点に状況の変化は見られません。

### 【補 遺】

『けやき便り』創刊特別号（平成22年10月1日発行）に掲載された拙文「成熟した市民社会に夢を育む」について、一部文意の不明瞭な個所がありました。当該個所について以下に補足します。

最近の中・高校生たちに対して、市民参加型社会の実践的なスキルを身に付けさせることを目的とするシティズンシップ教育の実例としては、「模擬選挙」や「模擬国会」、「模擬裁判員裁判」などが挙げられます。昨年の参議院選挙の数日前には、数県の高校内で模擬参議院選挙（実際の参議院選挙の憲法上の位置付けや仕組み、選挙の方法などの講習や模擬投票行動の実践指導など）が行われました。

# 度々旅日記

情報学科2年 上野 栄三

## 姫路城あたふた登城記

旧山陽道（昔の大名往還道）を友達と二人で歩いていたころの話である。

兵庫県と岡山県の県境、赤穂郡上郡町八反坪地区と飯坂地区にまたがって昔の駅家（うまや）あとが発掘されたというので、JRに乗り現地に向かうが、時すでに遅く、埋め戻されており、仕方なく引き返すはめになる。姫路駅まで戻ってきたのが午後4時、ここで、姫路城を見学して帰ろうと思ったのが、そもそもどたばた劇の始まりである。友達が同行しないので、一人で行くことになる。「確か入城は午後4時半位だったと思うよ」といわれ、急いで電車を降り、姫路城へ急ぐ。かろうじて、午後4時20分に姫路城切符売り場に着く。入場料600円である。

「シニア割引ありますか？」安く入ろうとするさもしい根性である。

「割引はありません」「えっ、じゃ県民割引」

「それもあります！早くしないと閉りますよ」

「何時に閉まるのですか？」

「大門は午後5時に閉まりますが、4時30分から順次扉を閉めていきます」

「えっ、どっちから閉めていくんですか？」

「天守閣からです」

問答中にも4時30分が近づいてくる。

「天守閣のどこからですか？」

「最上階からです！」

「じゃ、後5分くらいしかないじゃん。近道はありませんか？」

城内マップを見ると、天守閣で九十九折りの道がある。

「近道はありません！」

「じゃ、抜け道とかは？」

「そんなものありません！」

あくまで労力を使わずして天守閣に登りたい怠け者精神丸出しである。

「じゃ、裏道？」

「あるわけないでしょう！」

「わっ、時間がなくなっていた！」

「お客さん、ここで、ごじゃごじゃ言ってるひまがあつたら、さっさと行かれたらどうです！時間ありませんよ！」

「ひゃーっ……………」

ドタバタ、あたふた天守閣へと走る。最上階（展望台）に着く直前にチャイムがなる。しかし、展望台にはまだ、沢山の観光客が居る。足早に降り、城内を見て、かろうじて大門の閉まる5時に場外に出る。

僅か、30分のあわただしい冷や汗タラタラ登城である。



### 文芸欄

栄三

笹竹が 願いの重み ささえかね

星流れ 願いも流れ ひとり者

あれこれと 世話やきたがる 年になり

半月生 タコもおちおち 眠れない

あじさい川柳会 最近の句会より

# ドイツ紀行

国際文化学科2年 岸本 司朗

2010年5月31日(月)～6月8日(日)までドイツを9日間旅行してきましたので以下報告します。

(1日目)5月31日(月)10時50分、ルフトハンザ741便にて1時間遅れで関西空港を離陸。ドイツ・フランクフルトまで9300km、12時間10分の空の旅。フランクフルト(同日16:00)着。関西空港も機内も平日にも拘らず大混雑、満席で不景気等どこの国のことかと思ってしまう。乗機はエアバス(A340-600)で今回この機種には初めて乗った。大変良かったのは客室が上下2階構造になっていて、2階が座席、1階がトイレになっていて私の座席に対応するトイレは5室あり、1、2階とも天井の高さも十分にあり狭さを全く感じなかった。階段でストレッチも十分できた。

時差は夏時間で7時間あり、得をした気分。バスにて94km南下して今夜の宿泊ホテルのあるホッケンハイムに着く。

(2日目)6月1日(火)ホテルを7時40分に出発、21km走りハイデルベルクに着く。ここは1386年(日本では何と室町時代、足利義満の頃)にルプレヒト1世によって創設されたドイツ最古のハイデルベルク大学で有名。現在30000人の学生が在籍し、ハイデルベルクの全人口のおよそ5分の1を占める典型的な学生街。マックス・ヴェーバーやカール・ヤスパースが教鞭をとり、ノーベル賞受賞者も多数輩出している。又「アルト・ハイデルベルク」でも有名。丘の上に建つハイデルベルク城から望むネッカー川とアルテ橋(カール・テオドル橋)、レンガ色の屋根を持つ中世そのままのような街並みが美しい。古城街道を164km走り、街並み全体が中世を再現したスタジオセットのようなローテンブルクに到着、昼食。マルクト広場脇の市議員宴会館の壁には「マイスター・トゥルンク」の物語を題材にした将軍と市長が現れ、市長がジョッキのワインを飲み干すコミカルな姿が見られる“仕掛け時計”が有名。17世紀の30年戦争当時、この町を占領した将軍が、抵抗した市参事会員達の首をはねようとしたところ、フランケン・ワインを勧められていい気持になった将軍が、大ジョッキを手に「このワインを飲み干せる者がいれば斬首は許してやる」と言った。そこで、年老いた市長がなんと30余りのワインを一気に飲み干し、議員たちは刑を免れた。こうして市長は英雄となり、街をあげての盛大な祭りに発展した。観光後、再びバスでロマンチック街道を南へ267km走って今夜の宿泊地のフェッセンへ。ホテルは3階の屋根裏部屋でガラス製の天窓が開閉でき、開けるとアルプスの冷気が入ってきて早々に閉めた。

本日走行時間計約7.5時間、距離452km。

(3日目)6月2日(水)、ディズニーがシンデレラ城のモデルにした白亜の美しいノイシュバンシュタイン城見学。建築は意外に新しく、ルートヴィヒ2世の命により1869年着工、1886年王の変死により工事中止、未完。王はリヒャルト・ワーグナーのパトロンとして終生、援助し続けたが、政治を忘れ、中世の騎士達が住むに相応しい城を自らの手で築城することを願い、その結果悲劇的な結末を迎えることになる。昼食後、世界遺産ヴィース教会観光。主祭壇の“鞭打たれるキリスト像”が有名。内部は装飾に満ち、細部まで緻密な技巧が凝らされ、ロココ様式の最高傑作とされる。再びバスに乗り、ロマンチック街道を北上、さらに古城街道を東進し本日の宿泊地ニュールンベルク着。

本日走行時間計約6時間、距離340km。

(4日目)6月3日(木)、ホテル7時40分発。世界遺産バンベルクへ(63km)。北の小ヴェニスと

称されるレグニッツ川沿いにたたずむ美しい古都。4本の尖塔がそびえる独特の姿で知られる大聖堂（1237年築造）は街のシンボル。当日はキリスト教の聖体節だった為、街中拡声機で聖書と讚美歌が流れ、ミサが行われていた為、内部に入れず残念。次は北東に進路を取りドレスデンへ（283km）。ザクセン王国の首都として栄華を極めたドレスデンは「エルベ川のフィレンツェ」と呼ばれ、美しい街並みを誇ったが第二次世界大戦の空爆で崩壊した。このフラウエン教会はやはり第二次大戦の空爆で崩壊し、戦後は反戦のシンボルとして瓦礫のまま放置されていたが、東西ドイツ統一の象徴として1994年から6万ピースもの瓦礫を元通りに戻すという気の遠くなる作業をドイツ人らしい勤勉さで実行、2005年に完成した。ドレスデン城の北側壁面の「君主の行列」は約25000枚のマイセン製磁器タイルにザクセン王ら総勢93人が描かれており、第二次大戦の戦禍を奇跡的に免れたオリジナルで圧巻、長さ102m。

この日の観光はこれで終り、北に向かい、いよいよ統一ドイツの首都ベルリンを目指す（184km）。本日走行時間計約8.5時間、距離530km。

（5日目）6月4日（金）、午前中、世界遺産ポツダム観光。1945年7月26日、アメリカ、中華民国、イギリス、ソ連が戦後日本を規定したポツダム会談・宣言はツェツィリエンホフ宮殿で行われた。もともとプロイセン王家の居城として建てられ、ベルリン郊外の豊かな森とハイリガー湖、ハーフェル川に恵まれた閑静な立地。サンスーシー宮殿は、生涯、戦争に明け暮れたプロイセン国王フリードリヒ2世が憂いのない（＝サンスーシー）場所を求めて夏の離宮として建てた。ヴェルサイユ宮殿を模した。

ポツダムから33km東のベルリンに戻り昼食。緑色のベルリンビールはやや甘く、ストローで飲む。アルコール度は普通のビール並みだが苦みがなく、食事には不向きだ。以後は飲まなかった。世界遺産ペルガモン博物館、ブランデンブルク門等を見学。ベルリンの壁は殆んど破壊されたが、記念として長さ100m位を残し、フェンスで囲み触れられないようになっている。高さ3m、厚さ15cm位で思ったより薄い。かつての東西ベルリンの境界線上には（ベルリンの壁1961～1989）と刻まれた銅板が埋め込まれている。チャーリーチェックポイントでは、アメリカ兵（？）が星条旗（アメリカ国旗）を持って立っているのに「まだ冷戦が・・・」と一瞬ギョットしましたが、観光客目当ての写真撮影用と分かり一安心しました。一回1ユーロだそうです。ベルリンの目抜き通りを走っていて驚いたのは鬱蒼とした森が両側にあることでした。大都会の真ん中に、昼なお暗い森、ウンター・デン・リンデン（菩提樹通り）に代表される菩提樹の並木が美しく、ドイツ人の自然を愛し、守る並々ならぬ決意が伝わってくるようでした。ベルリン・フィルの本拠地シンフォニーホールは黄金色のモダンな建築物で1963年に完成。

本日はベルリンとポツダムの往復のみなので走行時間2時間、距離66km。

（6日目）6月5日（土）、ベルリンからワイマールへ（286km）

ワイマールはバッハ、ゲーテ、シラーが活躍し、「北のアテネ」と呼ばれた文化、学芸の中心地だった。

ワイマールは“清らかな水”、バッハは“小川”という意味。ガイドしてくれた現地在住のソプラノ歌手、木村さん（大阪市平野区出身）の話はとても上手で面白く興味津津でしたが、ここでは紙幅の都合でゲーテのエピソードを紹介します。ゲーテは生涯、数多くの恋愛遍歴を重ね、なんと74歳になってもまだ19歳の娘に求婚するという情熱を持ち続けた恋愛の天才でもあった。そのゲーテが、彼をワイマールに招請したカール・アウグスト公に無期限の休暇を願い出、誰にも行き先を告げず、

37歳から2年間イタリアに旅立った本当の理由についてである。ゲーテは出身地のフランクフルトからワイマールに26歳で到着した直後から7歳年上のシュタイン夫人と12年に及ぶ恋愛関係が続いた。ゲーテがイタリアに旅立ってから、二人の間には数千通に上る熱烈なラブレターが確認されている。ところでラブレターはイタリア語で書かれているが、シュタイン夫人はイタリア語の読み書きが出来なかった。イタリア語の読み書き出来る人間は限られ、実はゲーテはあろうことか、アウグスト公（ゲーテの8歳下）の母親であるアンナ・アマリア皇太后と恋愛関係にあり、ゲーテと母親とのスキャンダルに気付いたアウグスト公がほとぼりを冷ます為に、イタリアでの住居と生活の保障を約束した上で送り出したのではないかというのである。このイタリア滞在中の日記や書簡をもとに、30年後に『イタリア紀行』が書かれているのは周知の通りです。

ゲーテ街道を通り、この旅の出発地であり、ゲーテの出身地でもあるフランクフルトへ（274km）。本日走行時間計約9時間、距離560km。

#### (7日目) 6月6日(日)、フランクフルトからリュードスハイムへ(86km)

日本人経営のワインセラーにてワインのテイスティング。朝から貴腐ワイン、ベーレンアウスレーゼ、アウスレーゼ（特選）等高級ワインを試飲してほろ酔い気分！！

アイスワインに至っては外気温マイナス7℃以下の厳寒になるまでブドウを摘み取らないので、収穫は少ないが糖度が増す。従って値段は当然高くなり1本375mlで6300円とのこと。

#### その後ライン河クルーズ

ライン河両岸には、源流のドイツ、スイス国境のボーデン湖からの距離標識があり、乗船地（No.4）のリュードスハイムは525km、下船地のザンクト・ゴアールハウゼンは560kmなので35kmを1時間40分で下る。

ライン河の斜面一帯は特にブドウの栽培に適していたので、ラインの支流モーゼル川のモーゼルワインと並んでドイツ一のワインの産地ともなっている。またこの一帯は川幅が狭いので、武力（城砦）を背景にして、往来する船から通行税を取り立てるのに都合がよく、古城が多い。河の水は濁っていて、流れは速い。歌で有名な“ローレライ”はライン河に迫り出した岩塊で、美しい乙女の歌声に魅せられて船が座礁してしまう伝説はよく分かる気がする。

#### ザンクト・ゴアールハウゼンで下船、昼食後ケルンへ(119km)

“オーデコロン”は“ケルンの水”という意味。ナポレオン軍が侵攻した時に、この町の水があまりに良いのでフランスに持ち帰り、オーデコロン4711（住所を表す）という香水で有名になった。世界遺産ケルン大聖堂見学。螺旋階段を塔屋まで上る（2.5ユーロ）。ドイツ最大の規模を誇る典型的なゴシック様式で完成まで600年以上を要した。

観光後フランクフルトに戻る(196km)。本日走行時間計約6時間、距離401km。

#### (8日目) 6月7日(月)、フランクフルトから帰国

フランクフルト発14時 ルフトハンザ740便、関西空港着(9日目) 6月8日(火) 8時10分(11時間10分)

今回の旅行ではドイツの中部から南部を反時計回りに7日間で2443kmをバスで走りましたが、道は名だたるアウトバーンで片側3車線、路肩も優に1車線はあり、緑の森林、耕作地、牧草地が豊かで美しく快適でした。またアウトバーン脇には菩提樹、マロニエ、プラタナスの樹木が延々と続き、緑地帯を挟んで舗装された自転車専用道路が完備されていて、ヨーロッパが自転車競技に強い理由が分かった気がしました。

(完)

## 今を生きる

国際文化学科1年 平嶋貞子

平成21年3月、定年退職で一区切りがついた。険しい道のりだった。昇りきった、感無量の思いあり。

私の働いた高度成長期の日本は、若さとエネルギーに高揚し突き進み走り続けた。

皆が錯覚していた。鰻上りの景気を、自分の実力と実感していた者が多くいた。バブルという得体の知れない怪物の実体も知らず、崩壊となった後も、まだ夢中で昇っていたに違いない。魑魅魍魎とした中で「危機感を持つ」の言葉が、訳も分からず飛び交っていた。不景気、派遣社員の雇用促進黙認、雇用崩壊の重圧に圧迫され、1年を残しての早期退職に至った。アーケードのシャッターが次々下りて、日本中が空家だらけとなり、若者の就職は困窮した。

もうええやろ！後は世のため人のためなどと考えず、好き勝手に生きよう！

平成22年4月、桜並木からけやき道をくぐり園田学園女子大学のシニア専修コース国際文化学科へ入学する。

長年、稼ぎ病に取り憑かれていた私は、会社と家の往復と子育てに明け暮れ、身体はすりへり、頭の中はスッカラカンのカラッポ。私のノータリンぶりはひどいものだった。

日本の歴史、日本の文学、日中関係は、世界はどうなっているの？文化人類学って何？フィールドワークって何？フィジーって何処にあるの？世界のことも日本のことも右も左も分からない。何にも知らないで歳ばかり喰って、よう今日まで生きて来れたもんや！

ことに自分のこともよく分からず、無謀にも目隠し状態で突っ走っていたに違いない。今日まで生命があったことが不思議とも思える。

よほど強力な守護霊様が5、6人は憑いておられたと考える。神は私を見捨てなかった。清く、正しく、美しく生きている私を見捨てられなかったのだ。神様に導かれ私は今、園田学園の図書室にいる。空高くして、木々紅葉す。窓から

の眺めに癒される。図書館は閑静空間である。膨大な本。私だけの机に座り、私だけの満足な時を過ごす。満たされた思いはお釈迦様の「この世は甘美である」という言葉を思い起こし、静かに合掌する。

私が心奪われる風景がもう一つある。

それは園田学園の学食風景。かわいい幼稚園のおともだちの声、プチプチプルルンお目めパッチリの女子学生の声、白髪紳士の味わいのあるお声、そして私達お婆さんの声、(本当はとっくに超えてお婆あさん)。それらが皆んな調和し、違和感も無く元気に楽しく食事している。幼稚園からシニア生涯学習まで、理想の学園である。

これからも、私達個人の力が園田学園の歴史を創ることと確信している。

先日の新聞に77歳の識字学級の生徒さんが書かれていた言葉が心に留まった。「教えてもらった文字が消えてなくならないように、手に書いて握り締めしめて帰ります」と。

学べることは貴きこと。学びの喜びを世界の方々に届けたい。

私は土曜日に豊中の国際交流センター「日本ぼちぼち」で日本語をボランティアで教えています。(日本語の教え方は園田学園で学ぶ)鎖国歴の長かった私には、自分の住んでいる街に多国籍の人が色々な事情で生活しておられることを思い知らされました。

学習者の皆さんは素直で一生懸命、時には自分達の国の話を嬉しそうにしてくださる。ここでは教える事と学ぶ事が一致している。何と素晴らしい事でしょう！

人生一生勉強、学ぶ事に

一つの無駄もなし

秋みのり 我あでやかに

染まりくる

## 一年生を振り返って

国際文化学科1年 大野 紀美子

雨で肌寒い入学式、少し緊張しながら門をくぐりましたが早くも一年が終わりに近づいています。最近の揺れ動く東南アジアの情勢に興味を持っていたところ、たまたま園田学園の「シニア専修コース」の事を知り応募させていただきました。講義は国際関係だけでなく文化人類学では知らない世界、文化を教えていただき文化の素晴らしさ、「異文化」について考えを新たにしました。得た知識を友達に披露したり意見交換したりで今迄とまた違った会話に花が咲いています。

他の教室（午前中の）から5分前に駆け込んだ月曜日、続くかな？と思いましたがクラスメートの方々に支えられて何とか一年生は終われそうです。皆さん大変お世話になりました。そして有り難うございました。

## 紅葉の今、思うこと

国際文化学科1年 村田 菊子

けやき通りは、今、紅葉に染まりうっとり見とれる美しさです。このけやき通りを歩きながら、少しずつ気分を学習モードにして教室へと向かうこの頃です。

私は、かねがね、国際的なことをもっと広い

視点で学んでみたい、と思っていました。国際文化学科で学べることになり、期待がいつぱいの受講をしています。今は、テレビやインターネット等の通信手段が発達し、居ながらにして各国の状況を知ることが出来ますが、いろいろな報道の中から、必要な情報を選び考えていくことはなかなか難しいことです。これまでの自分を振り返ってみても、大まかなことしか見ていなかったり、気づかず見逃して受動的に促えていたりということも多々ありました。

それが、受講により少し変わってきているのです。テレビで「劇的ビフォー……」という番組がありますが、あれほど劇的ではないけれど事実、変化しているのです。社会を見る目が！？もともと、これは他の人からすればたいしたことでないのかもしれませんが、私自身は、そのような変化にびっくりしています。

文化人類学、国際関係、日中関係史などの講義全般を通して、世界の文化や歴史などから、現代を考察したり理解していく手がかりを得られたような気がします。

世界は、一見平和のようでありながら、あちこちで疑念や不信が見え隠れしています。ぼんやりしていると、情勢や価値観まで大きく変化していることも有り得るやもしれません。

そんな今、学ぶべき事、考えるべき事は、たくさんあります。

より広い視野で考えていけるよう、そして、友たちと共に学びの輪を広げていけるよう、努めていきたいと思っています。



園田学園点描 ペサウ号 5号館2階

# 「数字」とともに

国際文化学科1年 中村 米三郎

「数字」は、無味乾燥ということで、多くの方はあまり関心を示されないと思いますが、私は、この「数字」のお陰で有意義な半生??を送り、人生の転機には、その影に「数字」があったように思います。

その「数字」と私の付き合いぶりをお話させていただきます。

## 小学校時代

私は、昭和20年4月に国民学校??に入学しました。小学校時代は、生活難、食料難の時代で、「数字」との付き合いどころか、何の勉強をしたか、何も覚えていない状態でした。

ただ、小学6年の時、担任の先生が勉強の合間をみて、毎日15分程、「太閤記」の話をして下さいました。お陰で、中学校、高等学校を通して「歴史」は好きでしたが、今でも、私は「歴史」が大好きです。その出発点は、この「太閤記」に有ったように思っています。

ただ、「数字」との付き合いは、何も語るべきものはありませんでした。

## 中学校時代

1年の時の記憶は、何も残っていませんが、2年の時、多分「数学」の因数分解が誰よりも早く出来たのを切っ掛けに、「数学」が好きになり、部活の「数学クラブ」に入りました。

この時から、「数字」との付き合いが始まりました。

## 高校時代

中学の時の「数学」は「解析」に変わりましたが、「解析」は「まあ」出来ました、「微分」「積分」となると、「まあまあ」になり、特に「数字」とは何の関係もない「幾何」になると「さっぱり」駄目でした。ということで、高校時代は、「数字」とはあま付き合いがあったとはいえない状態でした。ただ、「歴史」は、「日本史」「世界史」とも結構良かったと思っています。

## 大学時代

兄が「工学部」に入ったので、私は、なんとなく「経済学部」に進学しました。

1年、2年の時は、「数字」との関係には、あまり進展はありませんでした。

3年になって、専攻を決める時、「数字」を扱う学問「経営統計学」を選び、また学生の勉強グループ「経営統計研究会」に入会しました。

当時は、まだコンピュータはかなり初期の段階だったので、私たち学生が使っていたのは、手回し式計算機で、たまに教授が使っておられた電動計算機を使って、「数字」の分析を行っていました。

この時から、「数字」とはかなり深い関係に入っていきます。

## 社会人（銀行営業店）時代

「数字」のことはあまり考えずに、「銀行」に就職しましたが、最初の仕事は「貸付係」ということで、貸付利息の計算をソロバンで行っていましたが、「数字」と仲が良かった私は、計算を間違ったことが無かったので、係長から褒められました。

社会人4年目の春、私は、「コンピュータの勉強をしたい」と年1回行われる「自己申告書」に書き、人事部に提出しましたが、この「自己申告書」が私の人生を決定的なものにしました。

## 社会人（銀行コンピュータ部門）時代

4年目の夏、私は、銀行がコンピュータを導入する、ということで、新しく新設されたコンピュータ部門に異動し、プログラマーになりました。



〔IBM社製コンピュータと若き日の私〕

プログラマーという専門職になると、「数字」は日常業務の中に入ってきます。ただ、「数字」といっても、普通に使う「10進数」ではなく、「16進数」でしたが、最初は「16進数」に戸

惑いを感じながら、「16進数」にも愛着を感じて行きました。



プログラマーという仕事には「数学」が必要ですか、と良く聞かれましたが、「数学」が出来なくても良いですが、「数字」アレルギーは無い方が良いですね、と答えていたようです。

そして、定年退職まで、コンピュータ関係の仕事をしてきました。その間、35年になります。

### 第2の人生

社会を卒業して、第2の人生に入りました。そこで、コンピュータの弟ともいえるパソコンを教えるボランティア活動を行っていますが、その原点・底流には、「数字」があると思っています。

また、最近では、数字を当てる「LOTO6」を統計学的に分析して数字を当てるといって、「LOTO6」を楽しんでいます。

「数字」とは何の関係もないのですが、何十年も遠ざかっていた「歴史」にも、深い関心が出てきて、今年「園田学園女子大学シニア専修コース」に入学し、「歴史」の勉強もしています。

### そして「数字」とともに

パソコンで、ワープロソフトといわれるワードよりも、表計算ソフトといわれるエクセルの方が好きですから、もう少し「数字」とともに歩いていく日々が続きそうです。

### 「数字」に感謝！！

私の人生には、「因数分解」→「数学クラブ」→「経営統計学」→「コンピュータ」→「パソコン」と、「数字」に関することが、大きく関わっています。

### 「数字」に感謝！！

## 文芸欄



北田喜久子様作

### 「第二の青春」 賛歌

知新

日々の にちじち 歩みの中で 強く持て

若き心が それが青春

着飾って 表に出れば 街光る

青春しよう 仲間とともに

### 「青春」

サムエル・ウルマン

青春とは人生のある期間ではなく

心の持ちかたを言う

年齢に関係なく、たくましい意志、

豊かな創造力、炎える情熱、

こういう心の持ちかたを青春と言うのだ

年を重ねただけで人は老いない

理想を失う時に初めて老いがくる

## 総合生涯学習センターからのお知らせ

### 平成22年度卒業式、平成23年度入学式・オリエンテーション案内

#### 1. 日程の案内（全員の方へ）

- ① 平成22年度卒業式：平成23年3月18日（金）14時 ～ 321教室（AVホール）
- ② 平成23年度入学式・オリエンテーション：  
平成23年4月15日（金）14時から 大講義室（1号館4階講堂）
  - ・ 卒業式：在学のみなさんも一緒に、卒業生を送りましょう。
  - ・ 入学式・オリエンテーション：在学のみなさんで新入生を迎えましょう。

入学式後引き続いてオリエンテーションを行い、時間割表・シラバス、胸部レントゲン検査の案内をします。全員出席のこと。

- ③平成23年度の履修登録及び受講料納入期限は、平成23年5月6日（金）です。

#### 2. 3年生の方へ

- ① 卒業判定の発表は、来年1月です。不認定者には直接ご本人に連絡します。
- ② 来年度の研究生申込書をお渡しします。平成23年3月中に手続きください。
- ③ 卒業式は、上記のとおりですので、必ず出席願います。

#### 3. 研究生の方へ

- ① 来年度の研究生申込書をお渡しします。平成23年3月中に手続きください。

#### 4. 在学生の方へ

- ① 履修についての案内（必修科目、選択科目のとり方等）をオリエンテーションで説明しますので、万障繰り合わせて出席願います。（新学期早々は窓口が混雑しますので、個別説明等は十分に出来かねる恐れがあります）

## センター所長の独り言

例年この時期になると受講生のみなさんから「来年の時間割を早く決めて欲しい」と言われ、ようやく今年は11月にお知らせすることができた。時間割決定は、『若い学部学生の時間割が決まってから生涯学習の時間割が決まることになる』との原則は変わっていない。最近になってようやく学部学生の時間割が、従来の『年明け』から前年の10月頃に前倒しが可能になってきた。

ところが、この時間割がわかると、今度は一部の方から講座の中味は？シラバスはまだか？更には「中味を知りたいので今やっている授業を見学したい」と要求がエスカレート。

時間割ですら、「先生方の都合で変更があるかも知れませんよ」としており、正式確定版は、新年度入学式後のオリエンテーションで確認していただきたい。受講講座選択には、「お試し受講制度」を利用して、5月早々の履修登録としているのに、この「ご要求」である。

気の早い受講生の方々は、来年度のスケジュールを早々と決めたいのだ。できれば、そのだに来る日を1日にまとめようとして、興味ある科目から、ない科目への「乗り換え」る方もある。こうなると、「そのだ」と「他の」スケジュールとどっちを優先するのか？ である。

このシニア専修コースは、「じっくりと学びたい」人たちに向けての日本で唯一のコースである。是非、このシニア専修コース設立趣旨どおり「じっくりと学んで」いただきたい と思うのですが……。

## 編集後記

第2号の“けやき便り”が出来上がりました。第1号は不安が一杯でしたが、「けやき便り」は多くの方の手に渡りました。大変嬉しかったです。第2号は、生涯学習30周年の記念すべき年に当たり、編集員一同張り切って作成しました。2号も楽しんでいただければ幸いです。

F. Y

途中からの参加でしたが、けやき便りの効用は大きなものがあると感じました。特に取材活動を始めたとした学外の方への紹介には、十分に名刺代わりとなっており、学園への関心も増してもらえようでした。今後は、学生さんにも認知してもらえれば、一段とポテンシャルアップができそうです。

S. K

編集クラブも新たに二人の元気な方が参加され、益々活発になりました。第2号はどうか出版にこぎつけましたが、いよいよこれからが胸突き八丁。新しいネタを探して、ねじり鉢巻で頑張ります。

T. Y

第2号を発行することができました。第2号の編集から、文学歴史学科の2名が参加してくれました。これで、国際文化学科、文学歴史学科、情報学科の3学科が揃ったことになり、かなり充実した編集クラブになりました。万歳！

Y. N

# けやき便り 2011



## 1月 (JAN)

## 2月 (FEB)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					



## 3月 (MAR)

## 4月 (APR)



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

## 5月 (MAY)

## 6月 (JUN)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		



月	行事予定
3月18日 (金)	平成22年度 卒業式 午後
4月15日 (金)	平成23年度 入学式・オリエンテーション 午後
4月18日 (月)	平成23年度 授業開始
5月 9日 (月)	平成23年度 履修登録〆切
月 日 (未定)	胸部レントゲン検査
月 日	